



TITLE:

京大広報 No. 571

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 571. 京大広報 2002, 571: 1307-1326

ISSUE DATE:

2002-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/196533>

RIGHT:



京大広報

No. 571

2002. 9

目次

この頃話題になっているウイルス感染とか 不正アクセスとかって、どうということ？ 情報ネットワークのセキュリティ管理について(その1)...	1308
大学の動き	
長尾総長のアメリカ合衆国訪問.....	1312
長尾総長の中華人民共和国訪問.....	1312
復旦大学及びラオス国立大学との学術交流...	1313
「受験生のためのオープンキャンパス2002」 を開催.....	1313
部局の動き	
福井謙一記念研究センター銘板除幕式.....	1314
京大病院で食中毒シミュレーションを実施...	1314
保健コーナー	
秋冬の食中毒	青野 充.....1315
寸言 新設！～卒業生からのメッセージ～	
志力検査	大西正文.....1316
随想	
創造性と京都大学らしさ	名誉教授 池上 惇.....1317

洛書	
クローン猫とバーチャル化した世界	中辻憲夫.....1318
資料	
平成13年度予備的経費配分実績.....	1319
平成13年度歳入・歳出決算額 及び対前年度比較調.....	1319
訃報	1320
日誌	1321
公開講座	
京都大学春秋講義(平成14年度秋季講座).....	1322
平成14年度京都大学市民講座『いきる』.....	1323
お知らせ	
宇治キャンパス公開2002.....	1324
経済研究所創立40周年記念シンポジウム.....	1325
公開シンポジウム「心と体の現在」.....	1325
農学研究科附属演習林上賀茂試験地 一般公開自然観察会 「晩秋の里山を楽しもう」.....	1326
編集後記	1326



受験生のためのオープンキャンパス2002
- 関連記事 本文1313ページ -

京都大学広報委員会

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

この頃話題になっているウイルス感染とか不正アクセスとかって、 どういうこと？

情報ネットワークのセキュリティ管理について（その１）

【情報ネットワーク危機管理委員会】

学内に設置されているコンピュータへの不正アクセス（データの破壊，ホームページの改ざん，メールの不正中継，その他）やコンピュータ・ウイルス等による被害の発生を防止するとともに，被害が発生した際にはその拡大を抑止するための迅速な措置を講じることを目的として，平成13年8月に「情報ネットワーク危機管理委員会」が設置され，ほぼ24時間体制で危機管理業務に当たっています。これらの防止あるいは抑止効果を最大限に高めるためには，京都大学の教職員各位並びに学生諸君の協力が不可欠です。そこで，学内情報ネットワークのセキュリティ管理に関係のある一般的事項についての解説記事を複数回にわたって京大広報に寄稿し，広く関係各位のご理解とご協力をお願いすることにしました。



コンピュータウイルスとは：第三者（当事者以外の者）のプログラムやデータベースに対して意図的に何らかの被害を及ぼすように作られたプログラムであり，自己伝染，潜伏，発病機能等のうち，一つ以上有するもの。

不正アクセスとは：電子計算機に対して，電気通信回路（ネットワーク等）を通じて，許された利用以外の利用を可能な状態にすること。

- 京子さん** さっき，研究室の人たちが「パソコンがウイルスに感染しているぞ，こりゃ大変だ！」とって
いたけれど，どうしてなの？
- 吉田山君** いやー。感染したパソコンは，このままでは使えなくなってしまうからね。
- 京子さん** パソコンがウイルスに感染したとかなんとかって，まるで人間や犬，猫が病気しているみたいだ
わ。いったいどういうことなの？
- 吉田山君** そうだね。それじゃ，鴨川先生にやさしく説明していただくことにしよう。
- 鴨川先生** やあ，京子さん，吉田山君こんにち。今日はどんな質問かな？
- 吉田山君** こんにちは，先生。ちょっと2，3点教えていただきたいのですが・・・。
- 鴨川先生** 先生，パソコンがウイルス感染するって，どういうことなんですか？
- 鴨川先生** まるで誰かが病気になったようだけれど，実は，パソコンも病気と同じような症状に陥ることが
あるんだ。
- パソコンのウイルスには，情報ネットワークを介して他のパソコンに侵入し，例えばそのパソコン
のプログラムに自分自身を埋め込む機能があり，困ったことにそれがつぎつぎと伝染すること

だってあるんだ。これを自己伝染機能と呼んでいる。

それからね、**潜伏機能**といって、特定時刻、一定期間、処理回数等、発病に至る条件を記憶させて、発病するまでは症状を出さないようにする機能などを備えたウイルスもあるんだ。そして発病すると、プログラム、データ等のファイルを破壊したり、プログラム設計者の意図しない動作をするといった症状が現れるんだ。

どうだい、まるで人間がウイルスに感染したときのようだろう！

人間が発病すると、発熱したり、体がダルくなったりといったいろいろな症状が出るけれど、同じようにパソコンにもいろいろな症状が現れるんだ。

たとえば、

システムが使用中に突然止まる。

システムが起動できない。

ファイルが無くなる。

ファイルのサイズや作成日付などがオリジナルと異なる。

不自然なディスクアクセスがある。

ユーザの意図しないメール送信が行われる。

いつもと何か様子が違うと直感的に感じる。

Word や Excel 等のソフトウェアで文書ファイルを扱うときに、

- ・ 不審なダイアログボックスが表示される。
- ・ 文書ファイルの内容が勝手に変更される。
- ・ マクロの表示や編集ができない。
- ・ ユーザの意図しない印刷が行われる。

こんな症状がひとつでも現れれば、早急な対策が必要だ。人間には薬を注射するなどして治療するが、パソコンも同じように、ウイルスの駆除ソフトを投与（！）するんだ。もっとも、これまでに無い新種のウイルスの場合は、効かないこともあるんだ。

京子さん 先生、対処の仕方はインフルエンザの治療と同じですね。

鴨川先生 そうなんだ。もう一つ厄介なのが、人間の場合もほかの人に伝染するよね。パソコンのウイルスもほかのパソコンに伝染するんだ。これが問題なんだね。

京子さん 万一、自分のパソコンが感染しても、ほかの人のパソコンに伝染させては絶対いけないですね。

吉田山君 先生、それと不正アクセスってのがありますよね。これは何のことですか？

鴨川先生 一言でいえば、他人のパソコンを無断で使用してデータを改ざんまたは破壊したり、そのパソコンを“踏み台”にして他のパソコンシステムへアクセスし、いろんな被害を与えることだ。

不正アクセスを大別すると、「**侵入行為**」、「**なりすまし**」、そして「**サービス妨害**」がある。「侵入行為」には、ポートスキャン・パスワード推測によるセキュリティホールを狙った攻撃、ユーザ権限取得、裏口の作成、証拠隠滅等があり、これらはどれも不正行為だ。また、「なりすまし」のように、不正アクセスに必要な情報をユーザやその家族等から言葉巧みに聞き出し（ソーシャル・エンジニアリング）、取得したIDを利用してシステムに侵入する手口もあるんだ。そのほか、「サービス妨害」といって、あるサーバに対し過度の負荷を与えるなどして、サービス停止又は機能の低下を引き起こさせることもある。

京子さん あまりよくわからないですけど、いろいろあるんですね。

鴨川先生 そうなんだ。不正アクセスは物理的、経済的な被害を及ぼすだけでなく、精神的にも大きな被害

があるよね。また、自分のパソコンを踏み台にして官庁、大学、企業、他人に被害を与えた場合には、信用の喪失という大きな被害を被ることになるんだ。これは致命的だよね。友達のパソコンに被害を与えたら明日から絶交ということになるし、また、場合によっては不正アクセス法(第8条第1号)で1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処せられることもあるからね。

吉田山君

先生、ところでこれらの被害等はどのくらい発生しているんですか？

鴨川先生

うん。この統計を見てごらん。統計によると、ウイルスによる被害(図1)^(注1)の届出件数は2001年度に24,261件に昇り、これは5年前に比べ32倍、3年前に比べ12倍と急増しているんだ。特に、感染経路(図2)^(注1)としてはメール機能によるものが圧倒的多数であるのが現状だね。また、不正アクセス(図3)^(注2)についても届出件数が年々増加している状況がわかるだろう。

図1 コンピュータウイルス届出件数(IPA)

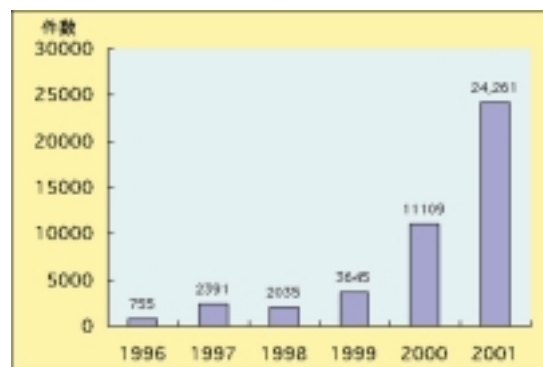


図2 コンピュータウイルス感染経路(IPA)

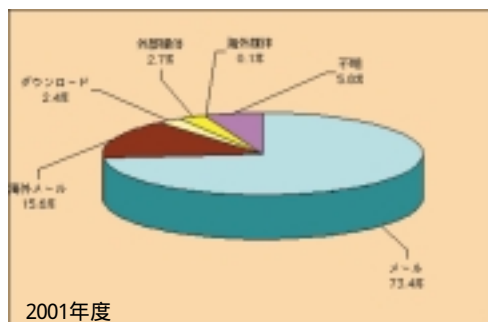
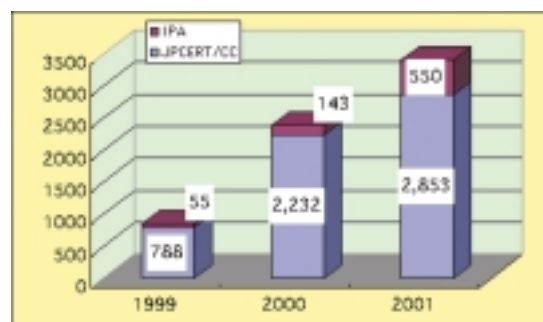


図3 不正アクセス届出件数(IPA)



IPA: 情報処理振興事業協会
JPCERT/CC: コンピュータ緊急対応センター

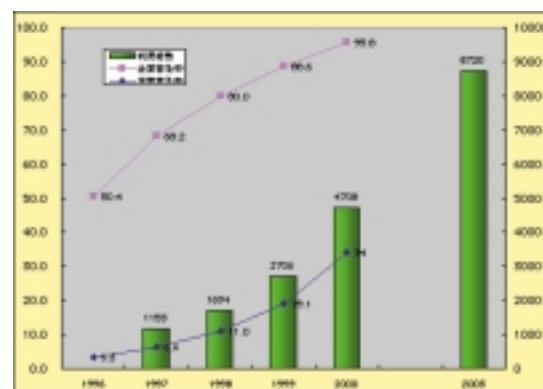
吉田山君

先生、小泉総理はIT革命を推し進め、向こう5年間で電子政府を樹立するといってますよね。これって、まさに国民総パソコン化の時代に入ることですよね。これだけウイルスや不正アクセスによる被害が急増しているのに大丈夫なんですか。

鴨川先生

そうなんだ。IT革命は日本だけにとどまらず、世界的規模でますます進展し、パソコンが生活のインフラとして大きく定着することは間違いないだろう。(図4)^(注3)また、不正アクセス等もそれに比例して増加することも事実なんだ。政府は、「不正アクセス法」を公布したり、また情報セキュリティ対策のための各種組織等の設置、セキュリティポリシーの確立等、あらゆる対策を講じているところだ。

図4 わが国におけるインターネットの普及状況(情報通信白書 平成13年度版)



(注1) 情報処理振興事業協会セキュリティセンター編「コンピュータウイルス対策」

(注2) 情報処理振興事業協会セキュリティセンター編「不正アクセス被害の届出状況について(2002.2.1作成)」

(注3) 総務省編「情報通信白書 平成13年度版」

京子さん 先生、いろいろと教わりましたが、私が今やらなければならないこと、今できることは何ですか？

鴨川先生 実際、いろんな不正アクセス等に対応するには相当の知識と能力を必要とするし、一般ユーザがそこまでスキルを向上させることは非常に困難だろうが、少なくとも、パソコンを使用する際にいつもと何か違う、いつもと違う動きをするなど、直感的に何か違和感を抱いたときは、まずウイルス感染や不正アクセスを疑ってみることだ。また、メールを開いたとき、どこのだれかまったく判らない人から送信されたものや変な件名のものはクリックしないことぐらいは、基本的なスタンスとして誰もがもち合わせておくべきだろう。そのほかにも、自分のパスワードは定期的に更新するなど、日ごろから気をつける必要があるね。パスワードを書いたメモをパソコンに貼っておくなどは、間違ってもしないことが肝心だ。

ウイルスや不正アクセスなどは対岸の火事だと思うのではなく、自分のこととして考える姿勢が大切だね。他人事と考えて何もしていないでいると、あなた自身が被害者になるだけでなく、身に覚えがないのに加害者となり、社会的信用の失墜という重大な事態を招くことがあることを十分認識しておく必要があるだろう。それから、今日の話に関連する規定等として、

- ・ コンピュータウイルス対策基準

- (<http://www.ipa.go.jp/security/antivirus/kijun952.html>)

- ・ 不正アクセス行為の禁止に関する法律

- (http://www.npa.go.jp/hightech/fusei_ac2/houann.htm)

- ・ コンピュータ不正アクセス対策基準

- (<http://www.ipa.go.jp/security/ciadr/guide-crack.html>)

- ・ 情報システム安全対策指針

- (http://www.npa.go.jp/hightech/antai_sisin/kokuji.htm)

- ・ 特定電気通信役務提供者の損害賠償責任の制限及び発信者情報の開示に関する法律

- (http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/top/denki_h.html)

などがあるから、基礎知識として一度は読んでおいてもらいたいな。

吉田山君 先生、ありがとうございました。ウイルス、不正アクセスを自分のこととして捉え、今後、その対策方法等についても学習したいと思います。

参考文献：情報処理振興事業協会セキュリティセンター編「コンピュータウイルス対策」及び「コンピュータ不正アクセス対策」

大学の動き

長尾総長のアメリカ合衆国訪問

長尾 真総長は、6月19日から23日までアメリカ合衆国を訪問した。この間、環太平洋大学協会（APRU）第6回総会に出席し、同総会では「APRU 遠隔学習事業」セッションの議長を務めた。また、スタンフォード大学並びにカリフォルニア大学デービス校を訪問し、今後の更なる学術交流について話し合った。デービス校では、一昨年のカリフォルニア湾沖ポート事故の記念碑及び記念樹を訪れた。

（京大広報 No.564 参照）



長尾総長の中華人民共和国訪問

長尾 真総長は、7月2日から6日まで中華人民共和国を訪問した。この間、日中国交正常化30周年記念日中科学・産業技術交流シンポジウムに出席し、また南京大学、上海交通大学、復旦大学を訪問した。シンポジウムでは、「日中の産業技術交流の推進に向けて」セッションで報告を行った。



復旦大学長主催 夕食会にて

復旦大学及びラオス国立大学との学術交流

本学と中華人民共和国の復旦大学及びラオス人民民主共和国のラオス国立大学は、大学間学術交流協定の締結について協議を重ねてきたが、この度本学と同大学の教育・研究の交流と協力を推進するための「学術交流に関する一般的覚書」を交換した。

復旦大学との「覚書」は、本学長尾 真総長、及び復旦大学 王 生 洪 学長の署名により、4月25日に交換された。

同大学は、1905年創立の大学で、工業技術研究科、経営学研究科、経済学研究科、生命科学研究科、報道学研究科、文化遺物博物科学研究科の6研究科と中国語学・中国文学部、外国語学・外国文学科、報道学科、社会学科、世界経済学科、国際経済学科、

国際政策学科等28学科、25研究所を有する総合大学である。学生数は6,578人、教員数は2,430人である。
(復旦大学のホームページ <http://www.fudan.edu.cn/>)

また、ラオス国立大学との「覚書」は、本学長尾 総 長、及 び ラ オ ス 国 立 大 学 Bosengham VONGDARA 学長の署名により、5月30日に交換された。

同大学は、1995年創立の大学で、理学部、教育学部、社会科学学部、言語学部、経済・経営学部、工学・建築学部、森林学部、農学部、医学部、法・行政管理学部の10学部を有している。学生数は11,740人、教員数は790人である。(ラオス国立大学のホームページ <http://www.canpub.com/nuol/>)

「受験生のためのオープンキャンパス2002」を開催

8月8日(木)、9日(金)の両日、全学部が参加した本学では初めてのオープンキャンパスを開催した。

このオープンキャンパスは、受験生に京都大学をよりよく理解してもらうために企画されたもので、8日は文系学部(総合人間、文、教育、法、経済)、9日は理系学部(理、医、薬、工、農)で実施した。両日とも、午前中は総合体育館で全体説明会を行い、尾池和夫副学長の開会の挨拶に続き、長尾 真総長の「京都大学を目指す諸君へ」と題する講演や在学

生からの熱いメッセージが語られ、参加者は熱心に聞き入っていた。午後には各学部に分かれて模擬授業や研究室訪問などが行われた。このほか、フリー相談コーナーでは入試や学生生活、留学や奨学金などについて教官や学生などが質問に応じたり、附属図書館や総合博物館の無料見学も行われた。

両日とも残暑が厳しい中、全国各地から約四千人の高校生等が訪れ、キャンパス内は若者の熱気にあふれていた。

部局の動き

福井謙一記念研究センター銘板除幕式

福井謙一記念研究センターでは、去る7月9日に銘板の除幕式を行った。式は、関係教職員が見守る中、長尾 真総長、森島 績同センター長、本間政雄事務局長により銘板の除幕が行われた。

同センターは、ノーベル化学賞を受賞された福井謙一博士を記念して設けられた財団法人基礎化学研究所（京都市左京区高野西開町34番4）が京都大学



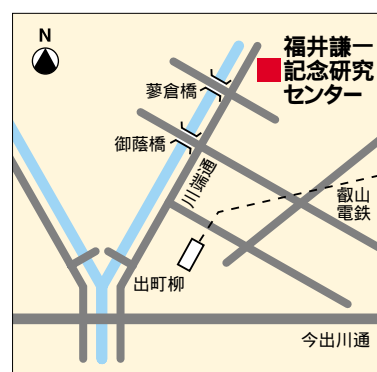
に寄附移管されたことを受けて、本年4月に学内措置により発足した。

福井博士の研究理念を継承し、最先端の基礎化学並びに関連する諸分野の科学を融合し、

次世代の化学理論の構築を行うことで、世界を先導する新たな物質観の創造を目指しており、「総合研究部門」と「理論研究部門」の2部門で構成する。

理論化学・計算化学及び仮想実験・実験化学の融合を推進し、次世代化学理論の構築と計算システムの開発を行うとともに、平成15年度より若手研究者の独創的な研究に対する助成を行う。

（福井謙一記念研究センター）



京大病院で食中毒シミュレーションを実施

医学部附属病院では、7月18日、非常事態時における院内及び外部機関との連絡体制等を確認するため、食中毒シミュレーションを実施した。このシミュレーションは、本年2月に他の国立大学附属病院で食中毒事故が発生したことから、安全管理室の提案の下、検討してきたものである。

シミュレーションは、未明から原因不明の下痢や嘔吐を訴える患者が発生し、厨房の使用を中止するという想定で行われた。田中紘一病院長の指揮により対策本部が設置され、集まった医師、看護師らは、情報の集約、診療・検査の体制、給食の確保等について、各項目ごとに対応策を協議し、真剣な表情で病棟、大学事務局、文部科学省等への連絡を行っていた。また、対策本部員の他、病棟職員、栄養士、検査技師、事務官等も参加し、院内の約50人が関わるシミュレーションとなった。

なお、同病院では、京都府立医科大学附属病院、京都第一赤十字病院、京都第二赤十字病院とともに、

災害等非常事態における治療食の相互協力体制の確立に向けて検討を重ねており、現在、これら3病院との相互支援協定が整いつつあることから、シミュレーション当日には、実際に代替調理の依頼書を送付し、連絡体制を確認した。

（医学部附属病院）



病院長室に設置された対策本部

保健コーナー

秋冬の食中毒

青野 充



飲食物によって、下痢や腹痛などの症状を起こすことは日常よくあります。俗に「食あたり」と呼ばれているものが食中毒です。一般的に食中毒とは、飲食物を通して体内に入った病原体、自然界の毒素または有害な化学物質などが、主に消化管に急性の症状を引き起こす健康障害です。近年食品を取り巻く環境は著しく変化し、食中毒発生状況も同時に変化してきています。患者数は、保健所への届けられたものだけでも毎年3～4万人前後の発生が見られており、実際には5～10倍いるのではないかと想定されています。厚生労働省が発表している統計により病因物質が判明したものについてみると、細菌が高い割合を示しており、近年では腸炎ビブリオ、サルモネラ属菌、カンピロバクターなどが8割以上を占め、それらが急増しています。

夏に猛威を振るった腸炎ビブリオ、サルモネラをはじめとする細菌による食中毒が一段落し、涼しくなる10月頃より集団発生で新聞紙上によく出る食中毒があります。代表的な食材は生ガキ、二枚貝であり、ノーウォーク様ウイルス（NLV）によるものです。NLVは別名その形態から小型球形ウイルス（SRSV）といわれています。海中のカキは大量の海水を吸い込み、その中のプランクトンをえさにしています。NLVは海水中に分布し、海水とともにカキに取り込まれ体内に蓄積・濃縮され、食中毒の原因になると考えられています。感染経路はNLVに汚染されたカキの生食、調理人あるいは食事として出されるまでに関わった人の手を介しての伝染、調理に使用する水がNLVに汚染されていたこと等が感染経路として報告されています。カキが原因食品になる理由は、感染した人の糞便に大量に排出されたウイルスが河川を経て海に至り、カキなどの貝に採り込まれ、これを食べた人が発症し、また、河川や海を汚染するという循環を作ることによります。症状は下痢、吐き気、嘔吐、腹痛で、ときに発熱、頭痛、筋肉痛を伴うことがあります。通常カキを食べて1～2日経ってから症状が始まります。カキのNLVによる食中毒では、カキが新鮮だから安心と

いうのは間違いで、カキの鮮度とは関係がありません。対策として食品を十分に加熱する、下痢や発熱している人は食品に直接触れさせないなどです。

秋冬にも少なくはない食中毒としてカンピロバクターによる食中毒があります。この菌は食中毒菌としてかなり高い発生頻度を示しています。近年、欧米諸国と同様に我が国においても増加傾向にあります。この食中毒の発生は5～6月に多く、7～8月はやや減少、再び9～10月頃に上昇傾向があります。最近、冬季の発生が著しく増加しています。この菌による食中毒発生時における感染源の特定は極めて困難であるのは、少量の菌量で感染が成立し、長い潜伏時間（2～5日）、通常の大気条件下で本菌は急速に死滅する特徴のためです。推定原因食品または感染源として、鶏肉関連食品およびその調理過程の不備が強く示唆されています。また、井戸水、湧水および簡易水道水を感染源とした事例があり、その原因の大部分は不十分な消毒でした。本菌はウシ、ヒツジ、野鳥及びニワトリなど家禽類の腸管内に広く常在菌として保菌されています。症状として下痢は必発であり、腹痛、発熱、悪心、嘔吐、頭痛、悪寒、倦怠感などがあり、他の感染型細菌性食中毒と酷似しますが、食べて発症するまでの時間が2～5日間とやや長いことが特徴です。一般的な予後については、良好な経過をとりますが、近年この菌の感染後疾患として末梢神経麻痺を来す疾患：ギラン・バレー症候群との関連性が注目を浴びています。本菌感染症の予防には、他の細菌性食中毒起因菌と同様獣肉（特に家禽肉）調理時の十分な加熱処理、また調理器具や手指などを介した生食野菜・サラダへの二次汚染防止に極力注意することです。また、本菌は乾燥条件では極めて生きる力が低いことから、調理器具・器材の清潔、乾燥に心掛けることも必要です。また、生肉料理を食べることは避けるべきです。イヌやネコ等のペットからの感染例も報告されており、ペットの衛生的管理が必要です。

食中毒の予防は、「清潔（保存・調理時に食品に食中毒菌を付着させないこと）」「迅速（食品中の食中毒菌を増やさないこと）」「加熱又は冷却（加熱調理時にはよく火をとおして菌を殺す。保存は、菌の増えにくい温度条件で）」の三原則を守ることです。

（あおの みつる 保健診療所長）

寸言

●
志力検査

大西 正文



本当に楽しく、充実した学生生活（旧制高知高校）を過ごした土佐。桂浜には坂本龍馬の銅像が立っており、しばしば訪れて太平洋の大海原を眺めながら、龍馬の気概とロマンに触れ、心を奮い立たせた頃がなつかしい。もはや60年も前のことである。

同じ桂浜の「坂本龍馬記念館」には、昭和63年に行われた銅像の“還暦式典”に当たって寄せられた司馬遼太郎からのメッセージが展示されている。

「・・・大きく弓なりに白い線をえがく桂浜の砂は、あなたの清らかさをあらわしています。この岬は、地球の骨でできあがっているのですが、あなたの動かざる志をあらわしています。（略）大きくひらかれた水平線は、あなたのかぎりない大きさを、私どもに教えてくれているのです・・・」まさに龍馬を慕い、気宇壮大な志に敬服する気持ちがひしひしと伝わってくる。

私は今でも時折、高知を訪れた際には、合間を見ても心弾ませながら桂浜に足を運んでいるが、たまたま昨年1月に行ったときには、改修されたばかりの高さ13.5メートルの銅像の隣りに櫓が組まれていた。「龍馬と同じ目線で太平洋を眺めよう」という趣旨で設置されている櫓は、通常は11月の「龍馬まつり」用のものであるが、この時は特別に2月末まで残されていた。太平洋から吹き上げて来る寒風に震えながらこわごわ登ってみたところ、眼下に広がる太平洋は冬の荒波で実に雄大、真横では龍馬が口を真一文字に結んで太平洋を凝視している。龍馬と同じ目線に立って、ともに太平洋を見ていると、新しい日本の建設に燃えた彼の高い志に改めて触れた思いがした。

私たちは、常に高い志を持つことが大切だと心の中では思いながらも、つつい日常の忙しさや惰性

に流され、安易に従来の延長線上の発想で考えてしまいがちである。やはり、折に触れて、“本当にこれでいいのか？ 志は貫かれているか？”と自らに問い直すことが必要ではなからうか。そういえば2年ほど前に、地元の特色や強みを「視力検査」ならぬ「志力検査」で再確認し、今後の取組み姿勢を世に訴えた香川県の新聞広告があったが、私たちもいわば「志力検査」を自らに課し、新しい展望を切り拓く糧にしていけることが重要だと思う。

今、21世紀を迎えて大学を取り巻く環境は大きな転換期を迎えており、社会が求める大学像も変わつつある。こうした中で、京都大学も単に学問の府としての役割だけでなく、大学で創造・蓄積した知的資源を社会に還元し、ともに発展していこうとされていることはまさに時宜を得た取組みであり、そのダイナミズムに心から拍手を贈りたい。

今後、京都大学が“社会に開かれた大学”として、わが国のみならず世界の発展の先導役を果たしていくためには、大学関係者、学生、卒業生等、京都大学にゆかりのある者がそれぞれの立場で、「これからの時代の京都大学はいかにあるべきか。そのために、変えるべきものは何か、変えてはならないものは何か」について、高い志を持って常に問い続けることが不可欠である。関係者が新しい京都大学を建設するという気概に燃えて、それぞれ「志力検査」を実施し、京都大学の特色や強みを活かした新しい設計図と変革への工程表が盛り込まれた“有効な処方箋”を見出しにいけるかが京都大学の未来を決するといっても過言ではないと思う。

私はかねがね「彼（彼女）は変わったなあ、と言われることが人間成長の証だ」と考えているが、是非とも国内外の多くの方々から「京都大学は変わったなあ」と言われるようになって欲しいものである。（おおにし まさふみ 大阪ガス^(株)相談役 昭和22年法学部卒）

随想

創造性と京都大学らしさ

名誉教授 池上 惇

最近、本学出身以外のノーベル賞受賞者も増加しつつあって、かつての神話に近い「京大はノーベル賞」という評価は下火である。日本の大学全体としても実力が認められつつあるとあって、喜ばしいことではあろう。同時に、京都大学関係者としては、創造性と京大の研究教育環境との関係は、依然として大変気になる話題である。在職中、冗談半分に「京大はゼミが済んでから飲み屋でコミュニケーションを手厚く実行するから論点が深まる」などとかからかい気分の発言も多かった。京都の飲み屋は「真理」などという恐ろしい名前がついていることもあるそうだから満更嘘でもなさそうだが、やや大向こうを狙った発言ともとれよう。



自分の拙い経験で、京大と創造性を考えるとき、いつも思い出すのは故豊崎 稔名誉教授の御指導である。経済学部に入學した頃は豊崎先生といえば、大阪の地労委でご多忙の先生であり、めったにお目にかかれない、と聞いていた。戦争中、大阪商大(現大阪市大)を辞されて商工会議所で過ごされたこともあり、今でいう社会貢献の先駆者であったから、当然といえば当然だった。ところが、である。私は大学院入学と同時に先生に指導教授をお願いしたが、ゼミナールが休講になった記憶はほとんど無い。そればかりか、いつも、古びた登山帽に大きな風呂敷き包みを抱えて研究室に臨まれる。当時の先生の研究室は「法経・松の廊下」と呼ばれる学内一等地の真ん中であつた。一種の静閑で洋風建築のモデルのような雰囲気、これは確かに異様であつた。しかも、部屋に入ると件の風呂敷きをあけて、われわれ大学院生が欲しがりそうな、貴重で、高価な資料、文献を次々に並べられる。目を丸くしている我々の方をチラとみてニヤッと笑われ、「欲しいものがあれば持って行け」と。最初は恐る恐る、次第に厚かましくなって沢山の文献や資料を頂戴した。それが

不思議なことに、われわれが欲しそうなものをちゃんと選んで重さなど無頓着に運んで来られたのである。先生が御病気で他界されたとき、御自宅の書斎にはほとんど何も無く、おそらくは、いつも高い金をかけて買ったものを、せっせと運んでおられたのではあるまいか。

私も馬齢を重ねて大学院学生を指導するようになり、はじめて理解したのは、先生は「指導されているものが必要とする物を必要なときに提示して選択させよう」とされたのだ、ということに気がついた。指導にも多様な方法があるが、これは一種の自立支援の方法であり、大学院生にテーマは自由に選ばせ、必要なときに必要な情報を提示し選択させる、という方法である。普通は「そんなことは自分でやれ」と言いたい所を「欲しいものはもってゆけ」とは、最高の指導方針ではないだろうか。私も先生の真似をして少しでも近付こうとしたが、これは、いうべくして恐ろしく難しいことであつた。指導する側が「こうだろう」と思うのと、指導される側が「こうしたい」と思うのとは一致しない場合が多いのだ。改めて我が師との力量の違いを思い知らされた。

定年後いくつかの大学でお世話になっているが、このような指導の方法にはまだ出会っていない。京大の創造性の担う伝統の方法とは、これか、などと妄想して時を過ごしている。

(いけがみ じゅん 元経済学部教授 平成9年退官、専門は財政学)

洛書

クローン猫とバーチャル化した世界

中辻 憲夫

米国の富豪が出資した研究によって、クローン猫が誕生して大きなニュースとなった。世界中に報道された可愛い子猫の写真を眺めながら、そこには見えていない事実を想像し、2匹の猫を飼う私は強い違和感をもった。クローンネコ誕生を成功させた研究者の気持ちは理解できる。体細胞核を未受精卵へ入れると再プログラム化（リプログラミング）が起きるという不思議な現象に学問的興味は大きい。但し成功率は数%以下と低く、無事誕生したクローン動物も正常で健康な場合は少ない。動物種によって異なる点も多く、ネコ科でクローニング研究を行う科学的意義は理解できる。



私が理解できないのは、可愛がっていた犬や猫を亡くしたとき、その体細胞からクローンを作って復活させたいと願う人たちの気持ちである。一匹のクローン猫を誕生させるためにはおそらく百匹をこえるネコが実験に使われたはずである。未受精卵を取り出す手術、核移植卵を借親の子宮に移植する手術が施されたわけで、愛猫家はこれらの猫たちに苦痛（適切な手術が行われたとしても身体的心理的な苦痛は小さくないはずである）を与えてでも、自分の愛猫を復活させたいと願うのであろうか。

クローン猫の毛色パターンはもとの猫と違っていた。毛色を作る色素細胞が胎児期に背中側から移動して、行き着いた皮膚の部分によってパターンが生じる。移動距離が最も長い腹側や手足の先端が白く残る場合も多い。細胞移動の距離や方向の細部は偶然によっても支配されるので、毛色パターンは完全には一致しない。イヌやネコの品種は人間が長年選別し品種改良したもので、身体特徴だけでなく性格も似通っている。しかしながら、人間と心を通わせるペットの場合は、心理面がもっと複雑である。生まれてから親猫と長く一緒にいたか、最初にどのように躰けられたか、飼い主との日々の交流から大きな影響をうけて育ってゆく。我が家の年上の猫は親猫からしっかりとトイレの作法などを教えられたしっかりものであり、老猫になっても年長者の気位を維持して、最初にえさをやらないと機嫌を損ねて

食べてくれない。年下の猫は、離乳時に捨てられて寒さの中で一命を落とす寸前に拾われた。最初は自閉症で全く声を出さなかったが、いまではすっかり自信を取り戻しておしゃべりである。年長の猫に譲ってえさをお先にどうぞと配慮を見せるが、すぐそばで見ていると早くしろと圧力をかけ、あとでたつぷりと御馳走にあずかる処世術を身につけた。大金を出してクローン猫を作らせた飼い主はどう考えるか。おまえはあの亡くなった愛猫と同じでない、違ってはいないか、とがっかりしたとしても、そこには罪のない普通の猫（頻発する病気を免れた幸運な場合は）がいるだけである。誕生したクローン猫に対して、あの猫と同じになるはずだと思い込みで接することは、猫にとっても飼い主にとっても不幸な結果に終わる可能性が大きい。

マスメディアやインターネットの情報の氾濫の中で、露出度の高いものだけが存在して、それ以外は存在を意識しない世界になっている。多様な視点から情報を提供することがメディアの役割であるが、すべて同じ視点では、現実の世界は隠されて、メディアに取り上げられた事実と見方だけが人々の意識に存在する、バーチャル化した世界となってしまう。近年人々の欲望は肥大化して限りがない。価値を作り出さずに巨利だけを生み出す経済的欲望や、クローン猫を作らせたスポンサーの心理を考えると、独善的な目的のためにクローン人間を作ろうとする人たちが現れるのは不可避に思える。私の周辺では、ES細胞を作るためにどのようなヒト胚ならば研究使用が許されるのかと議論され、メディアに大きく報道されてきた。現実の日本では、高齢者などの介護が重大問題となり、病気や経済的理由などによる自殺者が年間3万人をこえ、人工妊娠中絶は年間30万件をこえている。バーチャル化した世界の中で何をすべきか。ひとりの人間に与えられた時間は有限であり、思ったよりも短いというのが現実である。作ること自体が目的の書類作成などは最小限にして、小さくとも本当に意味のあることを成し遂げたいと願うこのごろである。

（なかつじ のりお 再生医科学研究所教授）

資料

平成13年度予備の経費配分実績

(職員旅費)

区 分	金 額	区 分	金 額
1. 予 算 額	16,406 千円	2. 配 分 額	16,406 千円
当 初 財 源	12,230	, 特 別 事 業 旅 費	8,745
欠員充員分より繰入	4,176	" 入 学 試 験 経 費	777
		" 各 部 局 へ の 補 足	6,884

(校 費)

区 分	金 額	区 分	金 額
1. 予 算 額	393,528 千円	" 厚 生 補 導 費	467 千円
当 初 財 源	379,925	» 入 学 試 験 経 費	30,304
欠員充員分より繰入	13,603	... 本 部 運 営 費	206,359
2. 配 分 額	393,528	% 管 理 運 営 費	91,921
, 継 年 の 補 足 経 費	24,570	庁 舎 等 管 理 運 営 費	43,615
" 教 育 研 究 経 費	39,907	施 設 等 整 備	48,306
教育研究用図書整備	2,087		
教育研究用事業費	37,820		

平成13年度歳入・歳出決算額及び対前年度比較調

(文部科学省所管国立学校特別会計)

区 分	平成13年度決算額	平成12年度決算額	比較増 減額	増 減率
歳 入	円	円	円	%
附 属 病 院 収 入	21,841,560,046	21,068,471,004	773,089,042	3.67
授 業 料 及 入 学 検 定 料	11,381,993,800	10,830,682,250	551,311,550	5.09
学 校 財 産 処 分 収 入	25,344,000	0	25,344,000	-
産 学 連 携 等 研 究 収 入	5,803,732,985	6,621,196,323	817,463,338	12.35
雑 収 入	3,500,104,890	4,004,952,358	504,847,468	12.61
合 計	42,552,735,721	42,525,301,935	27,433,786	0.06
歳 出				
国 立 学 校	55,323,977,659	55,071,481,167	252,496,492	0.46
人 件 費	36,355,757,989	34,845,292,465	1,510,465,524	4.33
物 件 費	18,968,219,670	20,226,188,702	1,257,969,032	6.22
大 学 附 属 病 院	24,417,538,706	23,428,631,862	988,906,844	4.22
人 件 費	9,360,519,501	9,223,101,042	137,418,459	1.49
物 件 費	15,057,019,205	14,205,530,820	851,488,385	5.99
研 究 所	14,732,810,907	15,443,209,288	710,398,381	4.60
人 件 費	8,652,376,089	9,024,016,269	371,640,180	4.12
物 件 費	6,080,434,818	6,419,193,019	338,758,201	5.28
産 学 連 携 等 研 究 費				
物 件 費	5,646,062,596	6,118,349,513	472,286,917	7.72
施 設 整 備 費	21,971,582,035	21,162,241,656	809,340,379	3.82
物 件 費	2,733,598,000	2,731,928,300	1,669,700	0.06
施 設 費	19,237,984,035	18,430,313,356	807,670,679	4.38
改 革 推 進 公 共 投 資 施 設 整 備 費	889,370,880	0	889,370,880	-
物 件 費	0		0	-
施 設 費	889,370,880		889,370,880	-
合 計	122,981,342,783	121,223,913,486	1,757,429,297	1.45
人 件 費	54,368,653,579	53,092,409,776	1,276,243,803	2.40
物 件 費	48,485,334,289	49,701,190,354	1,215,856,065	2.45
施 設 費	20,127,354,915	18,430,313,356	1,697,041,559	9.21

平成13年度予算補正2号限り

訃報

このたび、^{みぞはた しげる}溝端 茂名誉教授、^{むらかみこうじ}村上浩二名誉教授、^{いけだ しずのり}池田 静徳名誉教授、^{こでらくまさぶろう}小寺熊三郎名誉教授が逝去されました。

ここに、謹んで哀悼の意を表します。

以下に各名誉教授の略歴、業績等を紹介します。

溝端 茂 名誉教授



溝端 茂先生は6月25日逝去された。享年77。

先生は、昭和22年京都帝国大学理学部数学科を卒業、同大学理学部講師、助教授を経て同36年教授に就任、数学解析学講座、続いて微分方程式

論講座を担当された。

昭和63年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和48年から2年間評議員として、同50年より2年間理学部長として大学の管理運営に貢献された。

本学退官後は、昭和63年から平成7年まで大阪電気通信大学において工学部教授、大学院工学研究科教授、図書館長、評議員、理事、大学院創設準備委員などを務められた。

先生は、偏微分方程式論において多くの優れた業績を挙げ、先生の名を冠せられた定理や方程式は世界に広く知られている。

主な著書に「偏微分方程式論」があるが、この分野のわが国最初の本格的書物として学生や研究者に多大の影響を与えると共に、英訳されて世界の研究者の多くに用いられている。しかし、先生の学術上の最大の貢献は、近代的偏微分方程式論研究の大きな流れを我が国に作り出す中心的役割を果たされたことであろう。

また、日本数学会評議員・理事、日本学会会議会員、国際数学連合理事などの要職を歴任された。

この学術活動上の貢献により、昭和41年松永賞を受賞し、またこれら一連の研究教育活動、学会活動により、平成14年4月勲二等瑞宝賞を受けられた。

(大学院理学研究科)

村上 浩二 名誉教授



村上浩二先生は、7月4日逝去された。享年70。

先生は、昭和30年京都大学農学部農芸化学科を卒業、同大学大学院で学ばれた後、信州大学農学部講師、助教授を経て同43年京都大学農学部助

教授、同55年教授に就任、林産化学講座を担当された。

平成7年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、平成4年より2年間

評議員として農学部大学院化に伴う改組のとりまとめをはじめ、大学の管理運営に貢献された。

先生のご専門は林産化学で、その中でも木材成分の化学、パルプ・製紙科学に関する研究において優れた業績を残された。それらの中でとくに木材繊維および非木材繊維の形態と製紙特性の関連の研究は、今日注目されている非木材繊維からの紙製造における大きな指針になっている。

また包装学会、木材学会、繊維学会などにおいて副会長、理事、評議員などの要職を歴任された。

(大学院農学研究科)

池田 静徳 名誉教授



池田静徳先生は、7月10日逝去された。享年80。

先生は、昭和28年京都大学農学部水産学科を卒業、同大学食糧科学研究所講師、助教授を経て同40年同大学農学部教授に就任、水産化学講座を

担任された。

昭和60年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和48年から2年間評議員として、また同58年から2年間農学部附属水産実験所長として大学の管理運営に貢献された。

本学退官後は、昭和60年から平成6年まで近畿大学農学部教授を務められた。

先生は魚類生化学，中でも魚類栄養学に関する研究において優れた研究業績を残され，その発展に大きく寄与された。（主な著書に『魚介類の微量成分』等がある。）

また，日本水産学会，日本ビタミン学会，日本栄

養・食糧学会などにおいて理事，評議員等の要職を歴任された。これら一連の研究教育活動，学界活動などの功績により，平成9年4月勲三等旭日中綬章を受けられた。

（大学院農学研究科）

小寺 熊三郎 名誉教授



小寺 熊三郎先生は8月1日逝去された。享年92。

先生は，昭和9年京都帝国大学理学部化学科を卒業，同大学理学部副手，助手，講師，助教授，京都工芸繊維大学京都工業専門学校教授，京都工芸繊維大学教授を経て，昭和36年京都大学理学部教授に就任，無機化学講座を担当された。

昭和48年停年により退官され，京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間，昭和42年から2年間評議員として，大学の管理運営に貢献された。

先生の研究業績は，無機物理化学，分子科学，質量分析学，固体表面科学など，物理化学と物理学の広い分野にわたっているが，特筆すべきことは，化学反応の素過程を解明するための基礎である原子・分子衝突過程の研究に分子線法を世界に先駆けて導

入，発展させ，この分野の創設者の一人となったことである。多くの独創的な技術と研究を展開し，気相反応や表面科学の研究分野に新しい方法論や知見をもたらした。これらの先駆的業績は化学界のみならず，広く物理学，応用物理学などの学会の注目するところとなった。

また，先生は日本化学会で活躍されたのを始め，日本質量分析学会，原子衝突協会の設立に参画され，これらの学会の指導者の一人として重きをなされた。京都で行われた質量分析国際会議，真空科学国際会議，原子衝突国際会議の組織委員会では中心的役割を担われ，学術の国際交流や発展に多大の貢献をされた。

これらの一連の研究教育活動，学会活動により，昭和57年4月勲三等旭日中綬章を受けられた。

（大学院理学研究科）

日誌 2002.6.1 ~ 7.31

6月3日 附属図書館商議会
4日 評議会
" 大学院審議会
10日 学生部委員会
14日 入学者選抜方法研究委員会
" 同和・人権問題委員会
" 創立記念行事音楽会
18日 創立記念式
" 名誉教授懇談会
19日 国際交流委員会
" 総長，アメリカ合衆国を訪問（23日まで）
24日 アメリカ合衆国 James J. Duderstadt ミシガン大学名誉学長来学，総長他と懇談
25日 評議会
27日 総長，職員組合との交渉

7月2日 総長，中華人民共和国を訪問（6日まで）
5日 制規等専門委員会
" 同和・人権問題委員会
8日 人権に関する研修会
9日 評議会
12日 同和・人権問題委員会
15日 学生部委員会
17日 国際交流委員会
23日 大学評価委員会
" 将来構想検討委員会
" 保健衛生委員会
25日 同和・人権問題委員会
26日 運営諮問会議
30日 附属図書館商議会
31日 環境保全委員会

公開講座

京都大学春秋講義
〔平成14年度秋季講座〕

1. 講義日程

月曜講義（メインテーマ：食の安全と食文化）

開講日	テーマ	講師名
10月15日	今日の世界の農業・食料事情 - アメリカを中心に -	経済学研究科教授 中野 一新
10月21日	西チベット・ラダックにおける食文化にみる安全性	総合人間学部教授 山田 孝子
10月28日	都会人の嗜好と健康を支える食品加工	農学研究科教授 林 力丸
11月 5 日	一汁一菜から飽食へ	京都大学名誉教授 宮崎 昭
11月11日	生活習慣病と食	総合人間学部教授 津田 謹輔

水曜講義

開講日	テーマ	講師名
10月16日	アインシュタインの思考をたどる	文学研究科教授 内井 惣七
10月23日	素粒子論の歩んできた道	基礎物理学研究所教授 益川 敏英
10月30日	電磁波問題と予防原則	工学研究科講師 荻野 晃也
11月 6 日	大地と人間 - 食・農・環境の展望	農学研究科教授 祖田 修
11月13日	言語力を求めて - 貞室と三馬	地球環境学堂教授 横山 俊夫

2. 時 間：午後 6 時30分～ 8 時

3. 場 所：農学部大講義室（W100）

4. 定 員：300人

5. 受講料：無料

6. 申込方法：本学教職員及び学生に50人の特別枠を設けていますので、受講希望者は、所属部局の事務担当掛へお申し込みください。

7. 申込締切日：10月 4 日（金）

8. 問い合わせ先：〒606-8501 京都市左京区吉田本町

研究協力部研究協力課総務掛

TEL 753-2041

E-mail soumu78@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

詳細は研究協力課ホームページをご覧ください。

[http://www.kyoto-u.ac.jp/kenkyo/syunjyu14\(aki\).htm](http://www.kyoto-u.ac.jp/kenkyo/syunjyu14(aki).htm)

平成14年度 京都大学市民講座 『いきる』

1. 講義日程

開講日	テーマ	講師名
10月19日(土) 13:00 ~ 16:20	稲とともにいきる	東南アジア研究センター教授 田中 耕司
	健康老化は人類の夢?	医学研究科教授 鍋島 陽一
10月26日(土) 13:00 ~ 16:20	さかなを食べているということ - 食卓のさかなから「いきる」を考える -	アジア・アフリカ地域研究研究科助教授 岩田 明久
	ストレスに抗して生きる - 細胞の環境適応戦略	再生医科学研究所教授 永田 和宏

2. 場所：法経第7教室

3. 定員：250人

4. 受講料：1,000円（全講義を通しての受講料です。）

5. 申込方法：本学教職員及び学生が受講を希望する場合は、所属部局の事務担当掛へお申し込みください。

6. 申込締切日：10月4日（金）

7. 問い合わせ先：〒606-8501 京都市左京区吉田本町

研究協力部研究協力課総務掛

TEL 753-2041

E-mail soumu78@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

詳細は研究協力課ホームページをご覧ください。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/kenkyo/shimin14.htm>

お知らせ

宇治キャンパス公開2002

総合展示，公開ラボ

日 時 9月28日（土）9:30～16:30

なお，宇治キャンパス各研究所等の研究活動を一覧できる総合展示については，9月27日（金）
14:00～17:00一般公開に先立ち学内者に公開いたします。

会 場 宇治キャンパス内の各研究所・センター・研究科の施設

公開講演会 人類の豊かな未来のために ナノからグローバルへ

日 時 9月28日（土）10:00～15:30

会 場 化学研究所 共同研究棟大セミナー室

定 員 250人

参加費 無料

「食から見た安定共生系あれこれ」 農学研究科教授 北畠 直文

「制御って何」 情報学研究科教授 杉江 俊治

「ナノテクの宝庫・高分子化学」【宇治の市民大学 自然科学コース提携】
化学研究所教授 福田 猛

主 催 京都大学宇治キャンパス公開2002実行委員会

問い合わせ先 宇治地区事務部研究協力課研究協力掛

TEL：0774-38-3353 FAX：0774-38-3399

E-mail:kenkyo@uji.kyoto-u.ac.jp

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/campus/>

経済研究所創立40周年記念シンポジウム 「経済学のフロンティア」

日 時 10月3日(木) 14:00～17:00
 場 所 京都市国際交流会館
 プログラム 京都大学経済研究所創立40周年にあたって

経済研究所長 佐和 隆光
 知識創造社会における産業集積と経済成長 空間経済学の視点から
 経済研究所教授 藤田 昌久
 経済社会のゲーム分析
 経済研究所教授 今井 晴雄
 企業経営と天候リスクデリバティブ
 経済研究所附属金融工学研究センター長 刈屋 武昭

問い合わせ先 経済研究所庶務掛 TEL: 753-7102
 詳細はホームページをご覧ください。
<http://www.kier.kyoto-u.ac.jp/LatestNews/symposium021003.html>

公開シンポジウム「心と体の現在」

日 時 10月25日(金) 13:00～16:00
 会 場 附属図書館3階AVホール
 挨拶 副学長 尾池 和夫
 カウンセリングセンター長 岡田 康伸
 シンポジスト フォーカシング：からだで感じる心のメッセージ
 神戸女学院大学人間科学研究科教授 池見 陽
 動作療法：トラウマを克服する心とからだ
 兵庫教育大学附属発達心理臨床研究センター教授 富永 良喜
 気からみた心と身体
 京都文教大学臨床心理学研究科教授 濱野 清志
 カウンセリングセンター講師 杉原 保史

司 会
 入 場 料 無 料
 問い合わせ先 カウンセリングセンター TEL: 753-2515
 詳細はカウンセリングセンターホームページをご覧ください。
<http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/counseling/>

(カウンセリングセンター, 保健管理センター)

**農学研究科附属演習林上賀茂試験地
一般公開自然観察会「晩秋の里山を楽しもう」**

1. 日 時：11月23日（土）10:00～15:00（雨天決行）
2. 場 所：農学研究科附属演習林上賀茂試験地（京都市北区上賀茂本山2）
3. 定 員：50人（申込多数の場合は抽選）
4. 受 講 料：無料
5. 申 込 方 法：往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記入の上、お送りください。
6. 申 込 締 切 日：10月25日（金）《必着》
7. 問い合わせ先：農学研究科附属演習林上賀茂試験地

TEL：781 - 2404 FAX：723 - 1262

E-mail:kamigamo@kais.kyoto-u.ac.jp

詳細はホームページをご覧ください。

<http://p1unris.kais.kyoto-u.ac.jp/kami/index.html>

編集後記

以前から予告しておりました《^{すんげん}寸言》欄を、ようやく今月号から立ち上げることができました。これは、各界で活躍されている本学卒業生（大学院生を含む）に、自由なテーマで感想や意見を述べて頂く欄です。

我々がこの欄を設けようと思いついたのは、京大を出て、現在、社会のさまざまな第一線で奮闘されているOBの方々に、時おり時計台の方を振り返ってもらい、母校への思いや苦言や提言、母校の後輩たちへの忠告や励ましなどを、忌憚なく述べて頂くことによって、社会に出た先輩たちが、京大をどのように見、京大に何を期待しているのかを、本学構成員、とりわけ若い学生諸君に知ってもらいたいと願っていたからです。ですから、この《社会の第一線からの手紙》の第一の届け先で、第一の受益者は、次の時代を担う学生諸君になるでしょう。

この新企画の第1回目は、京都大学教育研究振興財団会長の大西正文氏（大阪ガス株式会社相談役）をお願いしました。ご多忙にもかかわらず、快く執筆を引き受けて頂き、トップ・バッターという勇気のいる役割を見事に果たして下さった大西氏に感謝します。これに続いて続々と京大に対する骨太で辛口の意見が寄せられると思います（少なくとも執筆予定者たちには、そうしてくれるようにと依頼してあります）ので、どうかご期待下さい。

（齊藤記）